

平成25年度 事業報告

I. 総括

厚生労働省は2013年の人口動態統計の年間推計を発表し人口減少が過去最多の24万4千人になると推計した。また、少子高齢化が加速する中で、核家族化が進み平成22年の国勢調査によると市内の単身世帯が4割に達し、高齢世帯だけでなく若い世代においても社会的に孤立しやすい状況になっている。孤立防止に向けた取り組みと人口減少に対応した社会づくりが必要となってきた。国は予算配分を高齢者分野から子育て分野へ大胆にシフトすると言っているが、どちらも重要課題であり、全体の枠組みの中で少子化対策・高齢者対策のあり方と予算配分を検討すべきであろう。雇用状況においても、近畿圏は全国平均よりも失業率が高く、所得階層区分では年収200万円未満の所得階層が増加することに伴い、生活保護率や生活福祉資金利用者も増加し生活困窮世帯が拡大してきている。

このような厳しい社会経済情勢の中で、社会福祉協議会（以下「社協」）では第3期地域福祉活動計画（平成25～29年度）において、「私たちは、あらゆる生活課題と孤立防止に向けた安心・安全の福祉のまちづくり活動をすすめます。」という基本目標を掲げ、今後5年間の地域福祉活動の計画的な推進に向けてスタートを切った。特に、地域の繋がりが希薄になった現状を踏まえ「見守り・居場所づくり・相談事業」を中心とした重点目標を各学区が設定し取り組みはじめた。各学区では積極的に居場所づくりを展開していただき、見守りの目を着実に増やしている。しかし、どの地域でも担い手不足が深刻な問題となってきた。今後は区・学区社協の活動の見える化を図り、活動に関わりやすい仕組みをつくっていく必要がある。

平成25年度は、特に以下の重点課題に取り組んだ。

1. 学区域を中心とした地域福祉活動の推進

・第3期地域福祉活動計画の初年度として平成25年度は、各学区社協において重点目標を設定し、それぞれに動き出している。今後はその重点目標を具体化していくことが課題である。

特に、大塚学区において地域福祉推進モデル事業学区として、学区における課題を把握するために全世帯（4,980世帯）にアンケート調査を実施した。約2,500世帯からの回答があり、地域の課題や実情について把握することが出来た。それらの課題を解決するため、学区内を中心とした福祉施設・教育機関・相談機関などとネットワークをつくり支援の仕組みを検討する基盤づくりを行った。今後は各学区に広げていく必要がある。

・平成24年度から始まった「地域の絆づくり事業」は、初年度は1ヵ所の開設のみだった居場所づくりが、平成25年度には7ヵ所につくられ、誰もが気軽に立ち寄れる居場所が各学区においてできつつある。今後はその居場所を拠点として、孤立防止に向けた取り組みや生活課題を把握する為の相談機能を充実させていく必要がある。

2. 山科区ボランティアセンターの活性化

・災害ボランティアセンター設置運営訓練

東日本大震災から3年が経過し、今尚、不安な生活を強いられている被災者の方がおられる。一方、社会の連帯感、人間関係の希薄さが指摘される今日、震災を通して改めて人の強さや優しさを知り、人との絆をより大切に作る機運が高まってきている。

今年度も災害ボランティアセンター設置場所となる山科青少年活動センターなどを会場とし、地域から実際にニーズが上がったことを想定し、どのようにニーズをセンターに繋ぎボランティアを派遣するかを参加者に知っていただくことができた。青少年活動センターの職員にも今年度から参加いただいたが、訓練内容や連携のあり方などについて、細部にわたる詰め不足が実地訓練の場面で明らかになった。災害ボランティアセンターの運営がまだまだ実際に則したものになっていない証拠でもある。災害ボランティアセンターと学区との連携体制の一層の具体化も求められている。

また、平成25年9月に発生した台風18号の被害により山科区を流れる音羽川と安祥寺川が氾濫し、本会館を含む多くの家屋が床上、床下浸水の被害に遭い、山科区と他区を繋ぐ交通機関は全てストップし大規模な交通渋滞が発生した。山科区社協は、本会館の被害状況を踏まえ、一方で事務局機能の復旧作業に当たりながら日常業務も通常通り推進しつつ、他方で災害ボランティアセンターの役割をも果たすこととした。このことを教訓として、災害ボランティアセンター機能の一層の具体化を図らなければならない。

3. アウトリーチとネットワークを生かした当事者支援活動の充実・強化

・生活福祉資金貸付事業

生活福祉資金貸付事業については、前年度同様500件近い相談を受け、低所得世帯に対する自立支援を行った。また、社会経済情勢の厳しさにより償還の滞る借受者への相談・自立支援を強化し、償還率も向上させることができた。加えて、区役所のケースワーカー、民生委員対象に説明会を開催し、制度の理解を図ることができた。今後も寄せられる相談に対し、民生委員をはじめ関係機関とも協力し連携を取りながら相談者に寄り添い、自立促進に努めていく。

・個別支援

社協ネットワークを活かして地域に出向き、地域の困り事や個別の生活課題のある方に対し、必要な関係機関と連携しながら相談対応をすすめた。特に、日常生活自立支援事業については、福祉事務所、地域包括支援センターなどの行政や専門機関と年間を通じて連携しつつ、専門員と生活支援員が地域と相談・利用者のところへと常に出向くことを基本として、取り組んだ。

また、若年性認知症および初期認知症の方々をお住まいの地域で支え、居場所づくりや社会参加の支援に取り組むためのモデル事業として、専門機関と住民組織の協力により認知症カフェが実施され、認知症支援の必要性に対する意識が関係機関に高まっている。次の段階へ取り組みをすすめるために、認知症の方と介護家族を支援するためのネットワークの組織化を本会が積極的に図る必要がある。

・京都市社協受託「チャレンジ就労体験事業」への協力

稼働能力はあるがすぐには就労が困難であったり、社会参加の機会が必要な生活保護受給者に対して、施設や企業での軽作業等の就労体験の機会を提供し、その経験を通じて自立への課題克服及び経済的な自立等にむけたステップアップへと促すことを目的として、7月から京都市社協が受託、区社協が協力した。

4. 第3期 山科区地域福祉活動計画と地域福祉推進モデル事業の推進

行政、専門機関、関係団体、福祉施設等の参画を得て、第3期山科区地域福祉活動計画推進会議を設置し、生活問題の解決や社会的孤立防止に向けた取り組みの計画的な推進を図った。

その中で、大塚学区を地域福祉推進モデル事業に指定し（前掲、学区重点課題参照）、学区内における福祉・教育等の関係機関、地域団体等に呼びかけ関係者懇談会を開催しネットワークづくりに取り組んだ。また、関係者懇談会を踏まえ、実態把握を目的とした全戸調査を実施した。調査活動をきっかけに活動の基盤の強化を目的とした自治会加入への促進も図った。今後はアンケート調査から得られた結果を基に大塚学区において浮かび上がってくる課題に対してネットワークを活用した支援体制の仕組みづくりの具体化に取り組んでいくことになる。新年度は、各学区における重点目標の計画的な推進と、地域福祉推進モデル事業の拡大を通じた区・学区における関係者のネットワークによる孤立者や生活問題を抱える方への支援体制づくりを、全学区で取り組んでいくことが必要である。

Ⅱ. 事業の概要

1. 法人運営

1) 会議

理事会（3回）、評議員会（3回）、監事会（1回）の基本会議に加え、区社協の意志決定及び事業執行を組織的に行うために、正副会長会議（12回）、学区社協会長会議（6回）、組織、事業、財政強化のために企画委員会（3回）、財務委員会（3回）を定例で開催した。

①正副会長会議

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 4 月 9 日（火）	区社協	1. 各事業報告 2. 平成 24 年度事業報告並びに収入支出決算について 3. 企画委員会・財務委員会（4/25）について 4. 監事会・理事会・評議員会について 5. 平成 25 年度賛助会員募集活動について 6. 平成 25 年度年間事業計画と当面の事業について 7. 平成 25 年度共同募金配分金助成申請、平成 24 年度報告について 8. その他 9. 当面のスケジュール
平成 25 年 5 月 14 日（火）	区社協	1. 各事業報告 2. 平成 25 年度第 1 回監事会・第 1 回理事会・第 1 回評議員会について 3. 第 1 回学区社協会長会議（5/16）について 4. 平成 25 年度地域福祉講座について 5. 第 3 期地域福祉活動計画の推進について 6. その他 7. 当面のスケジュール
平成 25 年 6 月 13 日（火）	区社協	1. 各事業報告 2. 第 1 回生活福祉資金貸付調査委員会について 3. 第 1 回山科区ボランティアセンター運営委員会について 4. 平成 25 年度地域福祉講座について 5. 平成 25 年度学区社協活動交流会について 6. 学区社協重点目標の設定ならびに台帳整備について 7. その他 8. 当面のスケジュール
平成 25 年 7 月 9 日（火）	区社協	1. 各事業報告 2. 学区社協活動関係について ①第 2 回学区社協会長会議について ②学区社協活動交流会の開催について ③学区社協重点目標の設定ならびに台帳整備について 3. 区社協事業関係について ①平成 25 年度共同募金配分金助成金交付説明会について ②第 19 回山科区社会福祉大会について ③区災害ボランティアセンター設置運営訓練について ④地域福祉委員会フリースペース進捗状況について 4. その他 5. 当面のスケジュール
平成 25 年 8 月 5 日（月）	区社協	1. 各事業報告 2. 学区社協活動関係について ①学区社協活動交流会 最終確認について ②学区社協重点目標の設定ならびに台帳整備 進捗状況について 3. 区社協事業関係について ①第 2 回企画委員会について 4. その他 5. 当面のスケジュール

平成 25 年 9 月 10 日 (火)	区社協	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各事業報告 2. 学区社協活動関係について <ol style="list-style-type: none"> ①地域福祉講座、学区社協活動交流会の振り返りについて ②第 3 回学区社協会長会議について 3. 区社協事業関係について <ol style="list-style-type: none"> ①第 19 回山科社会福祉大会について 4. その他 5. 当面のスケジュール
平成 25 年 10 月 15 日 (火)	区社協	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学区社協活動関係について <ol style="list-style-type: none"> ①学区社協重点目標の設定ならびに台帳整備 進捗状況について ②台風 18 号に関する取組について【資料 No. 3】 2. 区社協事業関係について <ol style="list-style-type: none"> ①第 19 回山科区社会福祉大会について【資料 No. 4】 ②生活福祉資金貸付調査委員会について【資料 No. 5】 ③ボランティアセンター運営委員会について【資料 No. 6】 ④第 2 回理事会・評議員会について 3. その他 4. 当面のスケジュール
平成 25 年 11 月 5 日 (火)	区社協	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 19 回山科社会福祉大会について 2. 災害ボランティアセンター設置運営訓練について 3. 学区社協会長会議について 4. 学区社協台帳ならびに重点目標の設定 進捗について 5. 学区社協活動助成に関することについて 6. 第 2 回理事会・評議員会について 7. その他 8. 当面のスケジュール
平成 25 年 12 月 10 日 (火)	区社協	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 2 回理事会・第 2 回評議員会について 2. 平成 25 年度役員研修会について 3. 平成 25 年度学区ボランティアセンター連絡会研修会について 4. 学区社協活動助成 寝具クリーニングサービス事業について 5. 平成 26 年度共同募金配分金 福祉関係団体助成について 6. 学区社協台帳ならびに重点目標の設定 進捗について 7. 平成 26 年度 20 周年記念社会福祉大会について 8. その他 9. 当面のスケジュール
平成 26 年 1 月 14 日 (火)	区社協	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 5 回学区社協会長会議について 2. 平成 25 年度学区ボランティアセンター連絡会研修会について 3. 学区社協活動助成 寝具クリーニングサービス事業について 4. 平成 26 年度共同募金配分金 福祉関係団体助成について 5. 賛助会員募集活動進捗状況について 6. 平成 26 年度 20 周年記念社会福祉大会について 7. 生活福祉資金貸付事業説明・懇談会について 8. その他 9. 当面のスケジュール
平成 26 年 2 月 10 日 (月)	区社協	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 25 年度決算見込み並びに第 2 次補正予算について 2. 平成 26 年度事業計画 (素案) について 3. 平成 26 年度 20 周年記念社会福祉大会について 4. その他 8. 当面のスケジュール
平成 26 年 3 月 10 日 (月)	区社協	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 25 年度決算見込み並びに第 2 次補正予算 (案) について 2. 平成 26 年度事業計画・予算 (案) について 3. 第 6 回学区社協会長会議について 4. 第 3 回理事会・第 3 回評議員会について 5. 平成 26 年度 20 周年記念山科社会福祉大会について 6. その他 7. 当面のスケジュール

②理事会

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 5 月 28 日 (火)	区社協	【第 1 号議案】評議員の補充選任に関する件について

		【第2号議案】 参与の補充選任に関する件について 【第3号議案】 平成24年度事業報告に関する件について 【第4号議案】 平成24年度一般会計収入支出決算に関する件について —監査報告—
平成25年12月12日(木)	区社協	1. 本会会員加入に関する件について 2. 経理規程の改正(案)に関する件について 3. 平成25年度上半期事業報告の承認に関する件について 4. 平成25年度第2次収入支出補正予算(案)の承認に関する件について 5. 第3期山科区地域福祉活動計画推進会議の設置に関する件について
平成26年3月28日(金)	区社協	1. 評議員の補充選任に関する件について 追加議案: 経理規程の改定(案)に関する件について 2. 平成25年度第2次収入支出補正予算(案)に関する件について 3. 経理規程の改定(案)に関する件について 4. 平成26年度事業計画(案)に関する件について 5. 平成26年度一般会計収入支出予算(案)に関する件について

③評議員会

開催年月日	場所	内 容
平成25年5月24日(木)	区社協	【第1号議案】 平成24年度事業報告に関する件について 【第2号議案】 平成24年度一般会計収入支出決算の承認に関する件について —監査報告—
平成25年12月12日(水)	区社協	1. 平成25年度上半期事業報告の承認に関する件について 2. 平成25年度第1次収入支出補正予算(案)の承認に関する件について
平成26年3月28日(金)	区社協	1. 平成25年度第2次収入支出補正予算(案)に関する件について 2. 平成26年度事業計画(案)に関する件について 3. 平成26年度一般会計収入支出予算(案)に関する件について

④監事会

開催年月日	場所	内 容
平成25年5月20日(月)	区社協	1. 平成24年度事業監査について 2. 平成24年度会計監査について 3. 平成24年度監事監査報告書の作成について 4. その他

⑤学区社協会長会議

開催年月日	場所	内 容
平成25年5月16日(木)	区社協	1. 平成25年度主要事業と年間協議事項について 2. 地域福祉講座・レクリエーション講座について 3. 山科区地域福祉活動計画について 4. 平成25年度山科区社協会長表彰候補者推薦依頼について 5. 平成25年度賛助会員の募集について 6. 学区社協活動交流(25年度各学区社協計画・近況報告等)について 7. その他
平成25年7月18日(木)	区社協	1. 平成25年度学区社協活動交流会について 2. 学区社協重点目標の設定ならびに台帳整備 進捗状況について 3. 第19回山科社会福祉大会について 4. 学区社協活動交流・近況報告等について 5. その他
平成25年9月19日(木)	区社協	1. 地域福祉講座、学区社協活動交流会の振り返りについて 2. 社会福祉大会・区社協会長表彰について 3. 学区社協台帳、重点目標について 4. 台風18号による学区被害状況について 5. その他
平成25年11月21日(木)	区社協	1. 第19回山科社会福祉大会の振り返りについて 2. 区災害ボランティアセンター設置運営訓練の振り返りについて 3. 学区社協台帳ならびに重点目標の設定 進捗について 4. 学区社協助成 寝具クリーニングサービス事業について 5. 学区ボランティアセンター連絡会研修会について 6. 学区社協活動交流(近況報告)

平成 26 年 1 月 16 日 (木)	区社協	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学区社協重点目標 今後の推進に向けて 2. 学区ボランティアセンター連絡会研修会について 3. 学区社協活動助成 寝具クリーニングサービス事業について 4. 賛助会員募集活動進捗状況について 5. 平成 26 年度 20 周年社会福祉大会について 6. 平成 25 年度学区社協活動助成金の申請・清算について 7. 学区社協活動交流 8. その他
平成 26 年 3 月 18 日 (火)	区社協	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 26 年度事業計画 (案)、予算 (案) について 2. 平成 26 年度 20 周年記念山科社会福祉大会について 3. 共同募金について 4. 平成 26 年度 学区社協助成要綱について 5. その他

⑥企画委員会

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 4 月 25 日 (木)	区社協	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 24 年度事業報告について 2. 年間事業概要ならびに年間協議事項について 3. 平成 25 年度主要事業について 4. 平成 25 年度山科区社協会長表彰候補者推薦依頼ならびに表彰状に替わる案づくりについて 5. 第 3 期山科区地域福祉活動計画 進捗状況について 6. その他
平成 25 年 8 月 22 日 (木)	区社協	<ol style="list-style-type: none"> 1. 区社協会長表彰被表彰候補者審査会について 2. 第 19 回山科社会福祉大会について 3. 平成 24 年度役員研修会について 4. その他 5. 主要事業、会議等日程
平成 26 年 2 月 27 日 (木)	区社協	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 26 年度事業計画 (素案) について 2. 第 3 期山科区地域福祉活動計画推進 進捗について 3. その他 4. 主要事業・会議等日程

⑦財務委員会

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 4 月 25 日 (木)	区社協	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 24 年度決算報告について 2. 年間主要事業概要ならびに年間協議事項について 3. 賛助会費について 4. 平成 24 年度報告・平成 25 年度共同募金配分金助成申請について 5. その他
平成 25 年 11 月 28 日 (木)	区社協	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 25 年第 1 次収入支出補正予算 (素案) について 2. 学区社協助成要綱の見直しについて 3. 平成 26 年度共同募金配分金について 4. その他
平成 26 年 2 月 27 日 (木)	区社協	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 25 年度決算見込み並びに第 2 次補正予算 (素案) について 2. 平成 26 年度一般会計収入支出予算 (素案) について 3. 平成 26 年度共同募金配分金について 4. その他

⑧苦情対応委員会

苦情解決規則に基づき苦情受付窓口を設置し、必要に応じて苦情対応委員会を開催した。

2) 賛助会員の募集

13 学区すべてにおいて募集活動を行い区民より賛同を得て会費という形で協力していただいた。賛助会費は福祉活動を支える大きな財源であると同時に、区・学区社協活動に対する期待のあらわれでもある。今後、多くの区民より協力を得られるような働きかけを行い、またそれらの期待に応える活動を積み重ねていくことが求められる。

山科区社会福祉協議会賛助会費（単位：円）

学 区	賛助会費実績	学 区	賛助会費実績	学 区	賛助会費実績
勸 修	1,089,000	陵ヶ岡	788,000	小 野	1,190,000
山 階	1,106,100	大 宅	785,700	音羽川	1,565,350
鏡 山	1,041,000	山階南	1,352,900	西 野	650,000
音 羽	839,900	百 々	1,085,900	事務局	590,000
安 朱	939,500	大 塚	1,182,870	合 計	14,206,220

3) 山科総合福祉会館の管理運営

山科区の地域福祉活動の拠点として、当事者組織やボランティアグループの活動を支援するために会議室やボランティア室の部屋の貸出しや、印刷機、車いす、アイマスク等の資機材の貸し出し利用に便宜をはかった。

2. 企画広報事業

1) 第3期山科区地域福祉活動の推進

行政、専門機関、関係団体、福祉施設等による第3期山科区地域福祉活動計画推進会議を行い、地域福祉モデル推進事業を進めるため生活問題や社会的孤立防止に向けた取り組みを下記の通り実施した。

① 地域福祉活動の促進

本事業の理解促進、地域福祉活動の促進のための地域福祉講座・学区社協活動交流会等の研修会を開催した。研修を踏まえ、各学区における地域福祉活動プログラムの開発、ネットワーク体制構築に向け、見守り・相談・居場所づくりを主とした重点目標を各学区にて設定した。

② ネットワーク体制構築・懇談会の実施

大塚学区社協を第3期地域福祉活動計画におけるモデル学区として指定し、学区内における福祉・教育・等の関係機関、地域組織、等に呼びかけ関係者懇談会を開催した。

③ 実態把握を目的とした調査活動。

大塚学区における関係者懇談会を踏まえ、実態把握を目的とした全戸調査を実施した。また、調査活動をきっかけに活動の基盤の強化を目的とした自治会加入への促進を図った。

④ 広報活動

大塚学区における調査活動を通じ、生活問題や孤立防止に向けた地域福祉活動の広報を行った。また、社会福祉大会において第3期地域福祉活動計画の配布、説明の上、関係者、区民を挙げた取り組みの提起を行い、第2部シンポジウムにおいて大塚の実践報告を行い全学区への展開を図った。（別紙4）

第3期地域福祉活動計画推進会議

日程	場所	内容・検討事項
平成25年7月31日（水）	区社協	1. 山科区第3期地域福祉活動計画の推進について 2. 意見交換・協議 3. その他
平成26年2月13日（木）	区社協	1. 第3期山科区地域福祉活動計画の進捗について 2. 地域福祉推進モデル事業について ①経過報告について ②今後の予定について ③調査票の案について 3. 意見交換 4. その他

大塚学区地域福祉推進モデル事業

日程	場所	内容・検討事項
平成 26 年 1 月 25 日 (土)	大塚学区 自治会館	1. 会長挨拶 2. 第 3 期地域福祉活動計画 ①計画の概要について ②重点目標について ③地域福祉推進モデル事業について ④質疑応答 3. 意見交換・その他
平成 26 年 2 月 15 日 (木)	大塚学区 自治会館	1. 会長挨拶 2. 地域福祉推進モデル事業について ①アンケート調査の依頼の説明 3. 質疑応答
平成 26 年 2 月 22 日 (木)	大塚小学校 ふれあい サロン	1. 会長挨拶 2. 地域福祉推進モデル事業について 3. グループ意見交換

2) 啓発事業の開催

①山科社会福祉大会の開催

福祉功労者への顕彰と福祉関係者の連帯を広げることと、地域福祉への関心を深めていただくために第 19 回山科社会福祉大会を開催した。式典には 500 名を超える方に参加いただき、第 2 部シンポジウムでは、「困りごとを解決し、社会的孤立を防止する福祉のまちづくりのために」をテーマに報告者から現在の取組と今後の展望についてお話しいただき、参加者のみなさんとともに、これからの山科の地域福祉を考える機会とした。

[日 時]	平成 25 年 11 月 9 日 (土) 午後 2 時～午後 4 時 30 分
[会 場]	東部文化会館ホール
[顕 彰]	表彰 37 名/2 団体 感謝状 3 名/6 団体
[内 容]	第 1 部 式典 第 2 部 シンポジウム テーマ：困りごとを解決し、社会的孤立を防止する福祉のまちづくりのために ～第 3 期山科区地域福祉活動計画のねがい～ 基調報告&コーディネーター 小暮 宣雄 氏 (京都橘大学教授、現代ビジネス学部長) 報告者 天尾 益子 氏 (大塚学区社会福祉協議会副会長 ボランティアセンターおおつか事務局長) 浜口 雄二 氏 (京都市立東総合支援学校 教頭) 岡村 治子 氏 (京都市音羽地域包括支援センター、主任介護支援専門員)

3) 調査研究事業

①基礎調査の実施

学区社会福祉協議会、当事者組織・団体、ボランティアグループの基礎調査を実施し、基礎情報をデータとしてホームページ等で紹介した。

4) 福祉情報流通事業

①機関誌「Be-Vo」(ビーボ)の発行

機関誌「Be-Vo」は、事業計画特集号、ユースアクション特集号等を発行し、地域回覧や全戸

配布にて事業の広報を行った。事業計画特集号では区・学区社会福祉協議会活動などを紹介し、賛助会費の使途、区社協予算について報告を行った。

②ホームページの充実

インターネットによる情報発信を強化するため、区社協が関わる講座案内をホームページ上に掲載し、区社協活動、区内各団体の行事予定や活動レポートなどを更新することで、訪問者・ボランティア活動者の増加に努めた。

<http://www.mediawars.ne.jp/~fukusi08/>

③広報通信員の活動促進

地域福祉活動実践の発信を目的として、学区社協に広報通信員制度を導入し、地域福祉活動の情報と実践を収集し、ホームページなどの広報媒体に掲載し、区民への情報の流通促進と共有化を図った。

④山科区行政推進会議への参加

「文化・教育・福祉部会」に属し、参加した。

⑤山科区地域福祉推進委員会への参画

山科区地域福祉推進委員会の事務局として、委員会や部会議等を開催した。

また、「山科区の地域福祉を考える集い」では、区内の居場所づくりについて映像を交えて参加者に紹介し、区内の活動状況を知っていただいた。後半では、参加者同士が懇談をしながら、居場所づくりのさらなる充実ならびに専門機関等との連携により新たな支え合いづくりについて検討し、今後の展望について共有した。参加者は117名であった。

山科区地域福祉推進委員会

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 5 月 21 日 (火)	区社協	1. 各委員の自己紹介 2. 平成 24 年度事業報告及び決算の報告 3. 平成 25 年度事業計画 (案) 及び予算 (案) の承認 4. 平成 25 年度シンポジウムの内容について 5. 各地域福祉推進委員の地域における活動報告と意見交換
平成 25 年 12 月 3 日 (火)	区社協	1. 平成 25 年度上半期報告 2. 平成 25 年度地域福祉シンポジウムの内容について 3. 各地域福祉推進委員の地域における活動報告と意見交換

山科区地域福祉推進委員会作業部会

平成 25 年 5 月 14 日 (火)	区役所	1. 平成 24 年度山科区地域福祉推進委員会振り返りについて 2. 平成 25 年度地域福祉推進委員会の事業について 3. その他
平成 25 年 7 月 11 日 (木)	区社協	1. フリースペースの今後の展開について 2. 平成 25 年度「山科の地域福祉を考える集い」について 3. その他
平成 25 年 11 月 26 日 (木)	区社協	1. フリースペース上半期報告について 2. 平成 25 年度「山科の地域福祉を考える集い」について 3. 地域福祉推進委員会本委員会について 4. その他

平成 26 年 3 月 14 日（金）	区社協	1. フリースペースの近況報告について 2. 平成 24 年度「山科の地域福祉を考える集い」について 3. 地域福祉推進委員会事業報告および予算執行見込みについて 4 次年度事業計画について。
---------------------	-----	---

山科区の地域福祉を考える集い

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 2 月 3 日（月）	区役所	参加者：117名（+要約筆記3名） 内訳：学区社協・民協役員59名、専門・関係機関24名、 NPO・活動グループ団体9名、一般13名、作業部会員6名、事務局9名 ☆居場所づくりの先にみえてきたもの 「フリースペース」実践報告と山科区内の居場所活動紹介 コーディネーター：山科醍醐こどものひろば 理事長 村井 琢哉 氏 ☆グループ討議・意見交換 テーマ：「居場所のこれから～私達だったらこんなことができるのに」 「居場所の次に考えないといけない地域の課題」

「フリースペース」の取り組み

少子超高齢・人口減少・無縁社会化がすすみ格差・貧困が拡大し、誰もが社会的に孤立した状態に陥りやすい状況にある。こうした状況は、虐待や自死・孤独死等の問題を生み、負の連鎖反応を引き起こしている。こうした社会問題を予防し、山科区民のボランティア力と障害者や高齢者等の活躍の場を生み出し、安心安全の福祉のまちづくりを推進することを目的として、地域福祉関係者の連携・協働によりすすめた。

フリースペースは高齢者を中心に利用されている。ご自身が過ごしやすく、居心地よく、過ごせる実感を持たれた方は、リピーターとなって継続した利用につながっている。また、専門機関・関係機関がスタッフとして出入りすることで、具体的な相談に繋げる場所としての活用もされ始めてきた。地域での孤立防止や社会参加目的で、ボランティアスタッフとしての参加を希望された方も多く見られた。参加者もスタッフも一緒に居場所を育み、各所個性豊かに作り上げられてきている。

また、居場所活動をしたい地域の方からの問い合わせや見学も増えてきた。

さらに、フリースペースの場で、会話の中で生活課題・地域課題が持ち上がり、専門機関や関係機関とのつなぎで解決にむけた動きに結びつけられている。

課題は、複数の要素を含んでいる場合が多く、複数機関で共に支援していく必要がある傾向がある。

フリースペース実施場所

実施場所	日時
山科醍醐こどものひろば (山科区竹鼻堂ノ前町 18-1)	毎週 月曜日 10時 ～ 16時
ふれあいスペース絆 (山科区大塚高岩)	毎週 火曜日 10時 ～ 16時
山科総合福祉会館 (山科区西野大手先町 2-1)	毎週 水曜日 10時 ～ 16時

笑顔とふれあいの家「みささぎ」 (山科区御陵原西町 42)	毎週 金曜日 13時 ~ 16時
----------------------------------	------------------

フリースペース実施場所

実施場所	日時
山科醍醐こどものひろば (山科区竹鼻堂ノ前町 18-1)	毎週 月曜日 10時 ~ 16時
ふれあいスペース絆 (山科区大塚高岩)	毎週 火曜日 10時 ~ 16時
山科総合福祉会館 (山科区西野大手先町 2-1)	毎週 水曜日 10時 ~ 16時
笑顔とふれあいの家「みささぎ」 (山科区御陵原西町 42)	毎週 金曜日 13時 ~ 16時

フリースペース実績

場所		山科醍醐 こどものひろば (山階学区)	東総合支援学校 ふれあいスペース絆 (大塚学区) 6月～	山科総合福祉会館 (山階学区)	笑顔とふれあいの家 みささぎ (陵ヶ岡学区)
項目		毎週 (月) 4 1 回 10:00～16:00 こじんまり静かに過ごす	毎週 (火) 4 2 回 10:00～16:00 地域主体の運営	毎週 (水) 5 1 回 10:00～16:00 広くて紛れやすい、 男性も集いやすい	毎週 (金) 4 6 回 13:00～16:00 アットホームに皆で集える
定例企画		第2週 AM おとなのはなしば 第3週 AM 絵本のよみがたり	第1週 AM すこやか健康体操 第3週 AM 高齢者なんでも相談	第1週 AM はげましの会 第2週 AM 子育てサロン	第2週 映画上映会 第3週 作品制作等
利用者 (のべ人数)	高齢者	29名	241名	1, 712名	73名
	障害者	21名	0名	1名	48名
	大人	45名	5名	237名	12名
	小人	19名	1名	172名	2名
合計		114名	247名	2, 122名	135名
スタッフ (のべ人数)	ボランティア	11名	120名	169名	29名
	専門機関	77名	104名	43名	69名
合計		88名	224名	212名	98名

フリースペースでの新規相談対応件数

月度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
新規相談 件数 (内継続件数)	2	1	2	3	3 (1)	7 (1)	4 (1)	1	1	2 (1)	2	1	29

フリースペースでの相談の詳細内訳（前記、新規相談合計29件の内訳）

内容	居場所等への社会参加	生活のしづらさ	就労・就学支援	介護等家族からの心配事	地域からの心配事	合計
高齢者	10	5	0	6	4	25
障害者	5	8	1	0	0	14
成人	3	2	1	0	0	6
子ども	1	1	1	0	0	3
合計	19	16	3	6	4	48

相談対応可能な専門機関

- こどものひろば : 山科醍醐子どものひろば、子ども支援センター、東部障害者地域生活支援センターらくとう、親子の教育センター
- ふれあいスペース絆 : 東総合支援学校、音羽地域包括支援センター
- 総合福祉会館 : 山科中央老人福祉センター 山科老人デイサービスセンター
山科区社協
- みささぎ : 多機能小規模施設みささぎ、日ノ岡地域包括支援センター

フリースペーススタッフ交流会

開催年月日	場所	内容
平成25年2月21日（金）	区社協	1. 情報交換 2. 交流懇談 3. その他

5) 研修事業

①学区社協活動交流会の開催

学区社協活動の活性化を図るために、学区社協活動の実務者を対象に活動交流会を実施した。今回は冒頭に地域福祉をめぐる動向について京都市社協より報告、学区からの実践報告では地域の絆づくり事業における居場所づくりをテーマにそれぞれ報告していただいた。

後半のグループワークにおいて、地域で起こっている現状やそれに対する学区の関わりなど、参加者が各学区活動の中で経験された内容を主に意見交換が行われた。参加者は84名であった。

開催年月日	場所	内容
平成25年8月9日（金）	東部文化会館 創造活動室	<p><報告①> 『社協をめぐる政策動向～今、社協に求められていること～』 京都市社会福祉協議会 生活支援部 生活支援担当部長 木俣紀子 氏</p> <p><報告②> 『山ノ内スマイルモーニング～これからの居場所づくりと相談活動』 右京区 山ノ内社会福祉協議会 副会長 佐藤龍治 氏</p> <p><報告③> 『地域の絆づくりにおける居場所づくり』 山科区 山階南学区社会福祉協議会 副会長 岩佐敏子 氏 <グループでの活動交流/グループ報告></p>

③役員研修会

国や京都市の動向を踏まえながら、身近な地域福祉活動に焦点をあて、住民主体による福祉

課題に対し、事業を進めていくために「福祉をめぐる最新の動向」をテーマに理事・監事・顧問・参与・評議員を対象に地域福祉活動について考える役員研修会を実施した。

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 12 月 12 日 (土)	区社協	「最新の福祉の同行と山科の福祉のまちづくり」 ◇講師 京都市社会福祉協議会地域福祉推進室次長 沖 豊彦 氏

④地域福祉講座の開催

地域福祉活動を推進する第一線の組織である学区社会福祉協議会の人材育成は、地域福祉を発展させるための最重要課題である。新しく学区社協活動を担う方をはじめ学区社協活動に関わる方を対象に、地域福祉活動の展開を考えると共に実際の活動に役立つ技術や知識等を学ぶことを目的として開催した。参加者はのべ50名であった。

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 7 月 7 日 (土)	区社協	「社協をめぐる動向～地域の絆づくり事業の展開において目指すもの～」 (講師) 京都市社会福祉協議会 地域福祉推進室 ボランティア・地域支援部 部長 吉川 彰 氏
平成 25 年 7 月 14 日 (土)	区社協	「これからの学区社協活動～第 3 期山科区地域福祉活動計画策定にあたって～」 (講師) 山科区社会福祉協議会 事務局長 村井喜治

⑤学区ボランティアセンター連絡会研修会

学区ボランティアセンター連絡会研修会では、地域の絆づくり事業をテーマに開催した。13学区から計37名の参加があった。内容は、前半に地域の絆づくり事業についての概要説明を行い、後半では各学区の取組を当該学区の参加者から説明していただき、意見交換を行った。

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 1 月 23 日 (木)	区社協	1. 地域の絆づくり事業について 2. 学区社協活動紹介 地域の絆づくり事業の取組について <グループでの活動交流/グループ報告>

6) 相談事業

①福祉総合相談事業の実施

地域福祉活動を推進する方策として、また、地域の身近な相談窓口として住民の信頼を高めるために福祉総合相談事業を実施し、身近な相談機関として相談機能の充実強化をすすめた。

福祉総合相談件数

相談件数
58件

②生活福祉資金貸付事業の推進

生活福祉資金貸付相談申請件数 (平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月)

	資金の種類	相談件数	申請件数
総合支援資金	生活支援費	29件	18件
	住宅入居費	5件	4件
	一時生活再建費	5件	2件
臨時特例	つなぎ資金	1件	1件
福祉資金	生業費	10件	0件
	技能習得費	3件	0件

民生児童委員会をはじめ関係機関との連携のもと、貸付相談と償還支援を行った。今年度、生活福祉資金貸付事業は、安定した労働収入が得られない方や失業等により日常生活に不安のある方が相談しやすく制度改正された。山科区における貸付相談件数は、年々増加していたが、今年度は相談 477 件、貸付申請件数 276 件であり、昨年度と同程度の相談・申請件数であった。しかし、京都市内の他

	住宅	3 件	0 件
	福祉用具購入	0 件	0 件
	障害者自動車購入費	2 件	0 件
	中国残留邦人等国民年金追納費	0 件	0 件
	療養費	5 件	1 件
	介護等	1 件	0 件
	災害援護費	6 件	2 件
	冠婚葬祭費	0 件	0 件
	転宅費	2 8 件	6 件
	技能修得支度費	1 件	1 件
	一般福祉費※	4 8 件	1 2 件
	緊急小口資金（災害特例 0 件）	3 1 件	3 件
教育支援資金	教育支援費	1 4 9 件	1 1 3 件
	就学支援費	1 4 9 件	1 1 3 件
	不動産担保型生活資金	1 件	0 件
	その他	0 件	0 件
合計		4 7 7 件	2 7 6 件

区と比べると相談・申請件数が圧倒的に多く、生活状況は依然として厳しい世帯が多いことが伺える。また、従来と比べ生活保護世帯への貸付（エアコン購入・設置費用、年金の後納費用）が増加している。

償還では、滞納初期の対応に重点を置き、電話相談、訪問による生活状況の確認などを行ない、借受人が計画的に償還できるように支援している。さらに、平成 25 年度は、第 3 期山科区地域福祉計画に基づき社協のネットワークを活かしたアウトリーチを一層積極的に展開し、法人内外の連携を強化し、関連機関とつながりながら相談対応をすすめた。（地域ケア会議参加、生活保護の全ケースワーカーを対象にした生活福祉資金の研修実施、山科区の関連機関へ広報活動）

平成 25 年度に関しては民生児童委員の改選があり、新任民生委を対象に生活福祉資金の研修会を行った。また、新任民生児童委員だけではなく、全民生児童委員対象に生活福祉資金貸付事業について、制度の歴史、概要、現状、実務などについて具体的に知っていただく説明会を開催した。さらに、これを契機に学区民協での説明会も希望に応じて行った。

償還対応件数

		借受人	連帯保証人	民生委員	事務局	合計
① 償還再開	計画通り償還再開	20	3	2	34	59
	分割申請	16		5	28	49
	猶予申請	4		1		5
	払込票（送付 or 返済案内）	40		4	9	53
	その他	10				10
② 償還完了	一括償還	10	2			12
	延滞利子免除申請	1				1
③ 償還相談中		22	3	29	6	60
④ 電話不在					143	143
⑤ 連絡不能、行方不明					5	5
⑥ その他	転居	29		22		51
	死亡	3	1	2		6
	その他（借受人と連絡つかない等の相談）	5		29		34
相談件数合計		160	9	94	225	488

貸付調査委員会開催状況

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 6 月 20 日 (月)	区社協	1. 相談・申請件数 (H24 年度) 2. 償還・申請件数 (H24 年度) 3. 平成 25 年度事業報告
平成 25 年 9 月 3 日 (火)	区社協	1. 審議 (障害者自動車購入費)
平成 25 年 10 月 24 日 (木)	区社協	1. 平成 25 年度上半期事業報告 2. 生活福祉資金貸付方針の改定について 3. 災害時の生活福祉資金 (災害援護資金) の取り扱いについて
平成 26 年 2 月 20 日 (木)	区社協	1. 平成 26 年度生活福祉資金事業計画 (案) について

生活福祉資金にかかる広報・啓発、研修、関係機関等の会議等の実施状況

事業所等の名称	日時
・山科区福祉事務所 (保険年金課) 【広報活動】	平成 25 年 4 月 11 日
・大宅診療所 (居宅介護支援事業所) 【広報活動】	平成 25 年 4 月 16 日
・京都市東部障害者 地域生活支援センター「らくとう」 【広報活動】	平成 25 年 4 月 19 日
・山科区役所 (福祉事務所) 【研修会開催】	平成 25 年 10 月 4, 18 日
・包括主催の社会福祉士の勉強会 【研修会開催】	平成 25 年 12 月 20 日
・新任民生委員及び主任児童委員研修会 【研修会開催】	平成 26 年 1 月 17 日
・民生児童委員へ事業説明会 【研修会開催】	平成 26 年 2 月 7 日
・地域ケア会議 【出席】	
・学区民協会長会議 【出席】	

7) 高齢者福祉事業

①山科区在宅サービス実務者会議への参画

区内の居宅支援事業所を中心とした実務者会議 (毎月開催) に参画した。

②山科区内地域包括支援センターとの連携

地域包括支援センター運営協議会 (2回)、運営会議並びに連絡協議会 (各月 1回) に参画した。また、学区ごとに開催される地域ケア会議 (各学区年 2～3回) に参画した。

③認知症への理解促進に関する啓発事業

長寿すこやかセンターが実施する「認知症あんしん京づくり」推進事業において、地域包括支援センター等と協力し区民への認知症理解を促した。

④山科・介護者の会「はげましの会」への支援

山科・介護者の会「はげましの会」への支援として、世話人会への助言と情報提供を行った。会員数は 58 名 (平成 26 年 3 月 31 日現在) である。

「はげましの会」では、介護者が集う機会を毎月企画し介護者の仲間づくりをすすめるとともに、広報紙の発行、誕生日カード・プレゼントの送付し交流を図るなど、介護者が一人で抱え込まないような取り組みを実施した。また、公開講座では「かかりつけ医と総合病院の違い」をテーマに開催し、介護にとどまらず感心のあるたくさんの方々も参加され学習の場を企画した。

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 11 月 16 日 (土)	山科区社協 2 階 会議室	第 1 部 「かかりつけ医と総合病院の違い」 澤内科医院院長 澤 美彦 氏 第 2 部 アンデスの音色 ケーナ “フォルクローレ” 泉 一郎 氏

8) 障害者福祉事業

①山科区障害者福祉サービス実務者会議への参画

障害者福祉サービスに関する実務者のフォーマルなネットワークである、障害者福祉サービス実務者会議に幹事団体として参画した。今年度、研修会等の会議は実施できなかったが、顔の見えるネットワークづくりのあり方について実行委員会で確認し、次年度にむけた新たな展開について協議した。

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 3 月 6 日 (木)	支援センター らくとう	1. 山科区障害者福祉サービス実務者会議の目的について 2. 次年度の方向性について

②山科こころの健康を考える会への参画

精神保健福祉の推進団体により組織されている「山科こころの健康を考える会」に、幹事団体として参画した。また、以下のとおり理解と交流を広げる事業に取り組むにあたり、本会も事務局として事業の企画、運営に携わった。

こころの健康を考える会 幹事会

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 4 月 24 日 (水)	区役所	1. 役員改選について 2. 平成 24 年度事業報告について 3. 平成 25 年度事業計画 (案) について 4. その他

こころの健康を考える会 総会

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 5 月 22 日 (水)	区役所	1. 役員改選について 2. 平成 24 年度事業報告について 3. 平成 25 年度事業計画 (案) について 4. その他

・「第 1 4 回 山科こころのふれあい夏まつり」

精神に障害のある人と地域住民との交流を目的として次のとおり実施した。

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 8 月 7 日 (水)	京都市生涯学習 センター山科	・オープニングイベント 京都橘大学「京炎そでふれ！」 ・活動 PR （陽だまりクラブ共同作業所・やすらぎの里・やましの里・ オリーブホットハウス・山科共同作業所・ハピネス京都・新 明塾工房ソラ山科教室・からしだねワークス・ひばり） ・作業所・社会復帰施設の手作り製品販売 ・くつろぎコーナー、缶バッジ作り、クイズ&スタンプラリー ・イベント お化け屋敷 山科かるた大会 ・「もてなすくん」がやってくる！

・精神保健福祉セミナー

こころの病のある人が安心して地域で暮らせるまちづくりのために理解を深めた。

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 2 月 26 日 (水)	京都市生涯学習 センター山科	テーマ 「高機能自閉症スペクトラムの理解について」 講師 京都市児童福祉センター 児童精神科医 田中 浩一郎 氏

・「こころの健康を考えるサポートボランティア入門講座」の事務局を担った。⇒ (24P参照)

③京都市東部障害者地域自立支援協議会「地域懇談会」への参画

東山区、山科区、伏見区醍醐地域がエリアとなる京都市東部障害者地域自立支援協議会では、「地域懇談会」を実施している。6回目となる今回は【「ひとりぼっち」を地域で見守り・支える】を考える内容で開催した。当日は、障害児者関係施設、事業所、学区社協関係者、民生児童委員等 81 名が参加した。3つの実践報告を踏まえ、その後グループディスカッションを行い、それぞれの立場から意見を出し合い共有した。こういった活動は継続して実施することで、より一層地域での障害に対する理解と協力を得られることが期待される。

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 3 月 13 日 (木)	伏見区醍醐 総合庁舎	テーマ 「ひとりぼっち」を地域で見守り・支える ①地域とつながって暮らすこと 日常生活自立支援事業利用者の生活の様子 報告：山科区社会福祉協議会 ②地域とつながらずに暮らすこと からしだねセンター利用者の「引きこもりから第一歩」 報告：地域生活支援センターからしだねセンター ③地域で暮らす家族として 報告：親子支援ネットワーク♪あんだんて♪

④福祉施設事業助成

赤い羽根共同募金配分金を財源として、福祉施設への事業助成を行った。交付にあたって、助成金交付説明会を開催し、共同募金運動をめぐる全国的な動向と現状、配分の趣旨についての説明会を開催し、趣旨に沿った活用と受配者自身の運動への参画を働きかけた。

作業所名	助成案件	決定額
山科工房	書類整理のためのパソコン	42,000
ハビネス京都共同作業所	・「染め」の絵付け後薬品洗浄用洗濯機 ・自主製品「木工小物」塗装効率向上のための塗装用機具	42,000
陽だまりクラブ共同作業所	メンバー対象パソコン教室用パソコン	42,000
わかばグループホーム	エアコン及び設置工事代	42,000
新明塾工房ソラ山科教室	冷蔵庫	42,000
	合 計	210,000

9) 子育て支援事業

①やましな子育て支援連絡会への参画

やましな子育て支援連絡会の事務局として事業運営に参画し、幹事会 (1 回) を開催した。また、部会である「子育て支援部会」での会議 (5 回)、「子育て支援部会」「発達支援部会」での研修等を実施し、関係機関での事業の具体化と情報共有を図った。

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 6 月 10 日 (月)	区社協	1. 自己紹介 2. 『やましな子育て支援連絡会』 ①平成 23 年度事業報告について ②平成 24 年度事業計画 (案) について 3. 『京都市山科区要保護児童対策地域協議会』 ①京都市における児童虐待の状況について ②質疑応答・意見交換等

・やましな子育て支援連絡会研修会

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 9 月 13 日 (金)	区役所	テーマ「学校や地域から見えてくる子どもの貧困」 幸重社会福祉士事務所代表 講師 幸重 忠孝 氏

②子育て支援情報パンフレットの発行

子育て支援の情報提供を目的に、子育て支援情報パンフレットの「児童館編」(2,000 部)を作成した。作成にあたっては、児童館と協議を重ねた。

③子育て講演会の開催

母親や子育て支援関係者を対象に講演会を開催し、「わらべうた」を通してあたたかい関係を自然と築き、親子一緒に楽しみながら子どもの育ちを助けるお話しをしていただいた。親子のふれあいと絆の大切さを実感することができた。41 組の参加者であった。

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 10 月 28 日 (月)	東部文化会館	テーマ「わらべうたとおはなしの世界」 講師 この本だいすきの会 京都南支部代表 岡田 典子 氏

④親子交流事業の開催

音楽に合わせて親子と一緒に体を動かす「親子いっしょにリトミック」、親子のふれあいを通して絆を育む「タッチケア」を開催した。児童館を通じて参加券を配布し、それぞれ35 組、37 組の親子の参加があった。

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 11 月 25 日 (月)	東部文化会館	テーマ 親子で音楽遊び「リトミック」 講師 特定非営利活動法人 リトミック研究センター 佐藤 敦子 氏
平成 25 年 2 月 3 日 (月)	東部文化会館	テーマ 「タッチケア」 講師 特定非営利活動法人 mama' s hug 山本 加世 氏

⑤障害児の長期休み支援事業（あそびの広場）の実施

障害児の余暇支援として、長期休み期間中に遊びの場を提供した。総合支援学校や学区社協などの協力のもと夏休み2回、冬休み1回、春休み1回実施した。のべ79名の親子が参加し、ボランティア53名の参加があった。

あそびの広場

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 8 月 6 日 (火)	京都市立東総合支援学校	バーベキュー・プール・自由遊び・かき氷作り

平成 25 年 8 月 20 日 (火)	京都市立小野小学校	流しそうめん・うどん作り・プール・自由遊び
平成 25 年 12 月 25 日 (水)	東総合支援学校	おもちゃつき・自由遊びなど
平成 26 年 3 月 25 日 (火)	山科青少年活動センター	一緒にクッキング・卓球・自由遊びなど

⑥発達支援部会事例検討会の開催

発達支援の必要な幼児期の子どもや親、家庭に対する援助方法や連携のあり方等について、保育園、幼稚園、児童館、民生児童委員他、関係機関を中心とした研修・検討をおこなった。参加者はのべ 120 名であった。

発達支援部会研修・事例検討会

開催年月日	場所	内 容	参加人数
平成 25 年 7 月 8 日 (月)	区社協	講演 「保護者の想いに寄り添う ～障がいを受け容れるということ～」 講師 古田 直樹 氏 (児童福祉センター発達相談課相談判定係長)	62 名
平成 25 年 12 月 13 日 (金)	区社協	内容 事例検討およびグループワーク ファシリテーター 岡崎 達也 氏 (児童福祉センター発達相談課支援担当係長)	58 名

⑦山科子育て応援団への支援

山科区内で活動する 7 つの子育てサークルのネットワーク「山科子育て応援団」では、親子での交流を大事にし、会議の開催や、サークル紹介リーフレットの作成、母親と子どもの仲間づくりを目的とした「第 10 回山科おやこ DE フェスタ」(87 組参加)の開催等を支援した。

第 10 回山科おやこ DE フェスタ

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 10 月 17 日 (木)	東部文化会館	ミニ運動会(勇気 100%体操・かけっこ・トンネルくぐり・大玉ころがし・玉入れ・キャラクターリレー・サークル紹介・体操)手遊び、赤ちゃんリズム、おしゃべり会、サークル紹介、絵本コーナー、工作コーナー、ペットボトルコーナー、大布バルーン

3. 学区社協支援事業

①学区社協活動

学区社会福祉協議会は、住民参加の下で地域福祉活動をすすめる基盤組織であり、福祉のまちづくりをすすめる最前線である。区社会福祉協議会が助成事業として推進している学区社協事業の項目と、各学区での実施状況は以下のとおりである。これ以外にも、高齢者等を対象に学区民との交流を目的とした「ふれあいの集い」など学区独自の取り組みへも重点事業助成として助成を行なった。

また、「第 2 期山科区地域福祉活動計画」にも掲げてきた学区社協懇談会・住民懇談会は全学区での開催には至らなかったが、学区毎の活動内容やその運営についての実態を学び、地域課題を共有するための一歩として、学区社協の役員をはじめ福祉委員やボランティアが参加する会議へ区社協職員が出席することができた。

今年度からは新たに策定された「第 3 期山科区地域福祉活動計画」を基に、引き続き、学区社協活動支援に重点を置いて計画的にすすめていく。

理 解 促 進	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13/13
学区社協広報紙の発行	○	○	○		○	○	○	○	○		○		○		10/13
仲 間 づ くり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13/13
地 域 と の 交 流	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13/13
訪 問 ネットワーク事業	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	12/13
寝具クリーニングサービス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			13/13
ふれあい配食サービス							○	○							2/13
健康すこやか学級事業	37	44	10	10	36	15	6	27	19	11	12	18	13	13/13	
学区ボランティアセンター	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	12/13

○は実施学区、健康すこやか学級事業は実施回数

②地域の絆づくり事業

平成24年10月より、相談活動・見守り活動・居場所づくりの3つを柱とする「地域の絆づくり事業」を開始した。今後ますます増加する高齢者が地域で安心して生活していけるよう、学区社協を中心に地域のあらゆる関係団体や専門機関と連携しながら取り組まれた。

学区社会福祉協議会の活動状況

	駒形	山階	鏡山	音羽	安朱	陵ヶ岡	大宅	山階南	百々	大塚	小野	音羽川	西野	実施率
相 談 活 動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13/13
見 守 り 活 動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13/13
居 場 所 づ くり 活 動	○	○		○	○			○		○	○			7/13

4. 日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）

1) 普及啓発事業

日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）について、関係機関、団体等へ事業の周知をすすめた。また、生活支援員確保のために学区社協の協力を得て、随時説明会を開催した。

2) アウトリーチとネットワークを生かした支援内容の充実

利用者支援では、専門機関や福祉サービス事業所との連携はもとより、利用者の地域生活における人とのつながりづくりも積極的にすすめた。利用者の地域を担当とする民生委員や老人福祉員に対し利用者支援カンファレンスへの出席要請を行うなど、利用者本人を支える多様な支援者が利用者だけでなく、支援者同士もつながるよう意識的に事業をすすめた。

①契約件数

	高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	山科区計
昨年度末実動件数	32件	12件	5件	0件	49件
新規契約件数	9件	1件	1件	0件	11件
解約件数	10件	1件	0件	0件	11件
今年度末実動件数	31件	12件	6件	0件	49件

②年間延べ支援回数 953回

③月別相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談	2	1	3	6	6	3	2	1	1	0	5	2	32
新規契約	1	1	0	2	0	2	0	0	2	0	2	1	11
解約	1	1	1	3	1	1	0	0	0	0	0	3	11

3) 人材の育成

①生活支援員の確保

市社協にて生活支援員養成研修が年2回行われ、山科区からは延べ10名の参加があった。山科区の生活支援員は47名の登録があり、そのうち30名がケースを担当し活動している。平成25年度としては、新たに9名の生活支援員が加わった。

②生活支援員研修会の実施

生活支援員の知識・技術向上のため、市社協で行う生活支援員現任研修(25年度2回開催)において、山科区内の生活支援員のうち15名の参加があった。

③山科区生活支援員交流会

生活支援員のスキルアップと利用者への理解を促進するために交流会を実施した。

開催年月日	場所	内 容	参加人数
平成25年6月7日(金)	区社協	・支援員活動について ・交流会	9名
平成26年1月30日(木)	区社協	・日常生活自立支援事業について ・交流会テーマ: ケース記録の書き方について	17名

④生活支援員向け情報紙の発行

生活支援員の意識向上と支援員活動のフォローアップを目的に、情報紙を発行した。支援員活動に必要な情報を定期的に伝えて利用者支援を充実させること、また支援員同士がつながり、お互いに情報交流できるよう努めた。

発行時期	号	内 容
平成26年1月	第5号	・事務局職員の紹介 ・現金の取り扱いについて ・第2回生活支援員交流会の案内 ・支援員の紹介 ・編集後記
平成26年3月	第6号	・消費税増税に伴うお知らせ ・生活支援員紹介

5. ボランティアセンター事業

1) ボランティアセンター運営

①山科ボランティアセンター運営委員会

当事者団体、学区ボランティアセンター、ボランティア団体、社会福祉施設、学校などの関係者で組織する「山科ボランティアセンター運営委員会」を開催し、区内のボランティア活動の振興・支援方策とボランティアセンター事業のあり方についての検討を行った。

山科ボランティアセンター運営委員会

開催年月日	場所	内 容
平成25年6月20日(木)	区社協	1. 平成24年度 山科ボランティアセンター事業報告について 2. 平成25年度 山科ボランティアセンター事業推進の具体化について 3. 情報交換・交流懇談 4. その他

平成 25 年 10 月 24 日 (木)	区社協	1. 平成 25 年度山科ボランティアセンター上半期事業報告について 2. 平成 25 年度山科ボランティアセンター事業の具体化について 3. 山科区災害ボランティアセンター設置・運営訓練について 4. 意見・活動報告・情報交換 5. その他
平成 26 年 2 月 20 日 (木)	区社協	1. 平成 25 年度山科区ボランティアセンター事業の振返りについて 2. 平成 26 年度山科区ボランティアセンター事業計画 (案) について 3. 意見・活動報告・情報交換 4. その他

②ボランティア活動に関する相談対応

福祉総合相談事業の中でも、ボランティア活動に関する相談について情報提供やコーディネートを行った。

ボランティア活動相談・コーディネート件数

	件数		ボランティアしたい	14 件
ボランティア相談件数	合計	31 件	ボランティアしてほしい	5 件
			その他	12 件

内訳⇒

2) ボランティア情報発信事業

①山科ボランティア情報の発行

機関誌「Be-Vo」に「山科ボランティア情報」を編集し、全戸配布することで、区民へのボランティア活動の啓発に取り組んだ。

②山科ボランティアガイドの発行

ボランティア活動の振興を目的に、ボランティア活動の基礎知識や、ボランティアグループの活動紹介などを掲載し、ボランティア基礎講座参加者を中心に配布した。

3) 人材養成事業

①ボランティア活動基礎講座の開催

ボランティア活動の基礎知識などについての講義と、ボランティアとして活動している方からの活動紹介を含めた講座を開催した。受講者は 21 名であった。

ボランティア活動基礎講座

開催年月日	場所	内 容	参加人数
平成 25 年 8 月 1 日 (木)	区社協	・お話 「ボランティアの基礎知識」 講師：武田 康晴 氏 (京都華頂大学 准教授) ・活動紹介「山科区にあるボランティアグループ活動・市民活動～こんな魅力・やりがいがいっぱい!～」 ・ボランティア団体への質問コーナー	21 名

②視覚障害者ボランティア入門講座の共催 (山科身体障害者福祉会館主催事業) (本会・青少年活動センター共催事業) 視覚障害者ボランティア入門講座を、山科身体障害者福祉会館、山科青少年活動センター、区社協が共催し、点訳サークル「京都ライトハウス情報ステーション」・「視覚障害者 PC 教室」の協力で開催した。受講申込者 7 名、述べ 17 名

視覚障害者ボランティア入門講座 (全 3 回)

開催年月日	場所	内 容	参加人数
平成 25 年 7 月 13 日 (土)	身障会館	障害当事者の体験談、街でのサポートについて話を聞く。点字の表記商品の紹介、点字器を使って文字入力を学ぶ。	6 名
平成 25 年 7 月 20 日 (土)	身障会館	点字器による点字記入を行い点字への理解を深めた。後半で	5 名

		は、アイマスクを付けて視覚障害を疑似体験。視覚障害者を手引きする際の注意点についてお互いに認識を持ちあった。	
平成 25 年 7 月 27 日 (土)	身障会館	点字器を使って受講者自身の名刺カードを作成した。後半は、今回の講座の総括を行ない、視覚障害当事者と交流し、質疑応答や意見交換を行なった。	6 名

③手話入門講座の開催

手話講座を、区社協主催、山科身体障害者福祉会館と山科青少年活動センターとが共催し、聴覚障害者協会山科支部と手話学習会みみずく山科支部の協力で開催した。手話を学びながら、聴覚障害者との交流を深めた。昼の部・夜の部あわせて 21 名の受講者があった。(昼・夜の部ー合計 12 回)

手話講座 昼の部 8 月 23 日～9 月 27 日／全 6 回 (7 名)

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 8 月 23 日 (金)	区社協	実技① 挨拶・名前・色
平成 25 年 8 月 30 日 (金)	区社協	実技② 数字・日付・時間
平成 25 年 9 月 6 日 (金)	区社協	実技③ 家族・交通手段
平成 25 年 9 月 11 日 (水)	身体障害者福祉会館	講義「聞こえない人の暮らしについて」 講師：井谷武司・石井 正・木村しげの (京都市聴覚障害者協会山科支部)
平成 25 年 9 月 20 日 (金)	区社協	実技④ 趣味・仕事
平成 25 年 9 月 27 日 (金)	区社協	実技⑤ 交流会

手話講座 夜の部 8 月 22 日～9 月 26 日／全 6 回 (14 名)

平成 25 年 8 月 28 日 (木)	山科青少年活動センター	実技① 挨拶・名前・色
平成 25 年 8 月 29 日 (木)	山科青少年活動センター	実技② 数字・日付・時間
平成 25 年 9 月 5 日 (木)	山科青少年活動センター	実技③ 家族・交通手段
平成 25 年 9 月 12 日 (木)	身体障害者福祉会館	講義「聞こえない人の暮らしについて」 講師：井谷武司・大槻千恵美・川本悟 (京都市聴覚障害者協会山科支部)
平成 25 年 9 月 19 日 (木)	山科青少年活動センター	実技④ 趣味・仕事
平成 25 年 9 月 26 日 (木)	山科青少年活動センター	実技⑤ 交流会

④要約筆記入門講座の開催

中途失聴者・難聴者への理解を深める要約筆記入門講座を、中途失聴者・難聴者協会山科支部と要約筆記サークルかたつむりの協力で開催した。京都市主催の要約筆記者養成講座受講へのきっかけと位置づけ、要約筆記について学ぶとともに、難聴者との交流を深めた。参加者は 31 名であった。山科身体障害者福祉会館共催。

要約筆記入門講座 (全 2 回)

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 2 月 15 日 (土)	区社協	聴覚障害に関する基礎知識 要約筆記の概要 要約筆記の三原則 (よみやすく書く技術) 筆談・ノートテイク 実技体験
平成 26 年 2 月 22 日 (土)	区社協	要約筆記の三原則 (正しく、速く書く技術) 話しことばの特徴とそぎ落とし 実技体験 交流会

⑤知的ハンディのある人をささえるボランティア入門講座の開催

知的ハンディのある人たちとの交流及び理解促進、さらに支援する人材育成を目的として講座を開催した。区内の福祉施設、ボランティア・当事者団体の協力のもと、実習とふりかえり、

活動先紹介などを盛り込んだ。参加者は25名であった。

知的ハンディのある人をささえるボランティア入門講座（全3回）

開催年月日	場所	内 容
平成26年2月8日（土）	区社協	講義 谷口 明広 氏（愛知淑徳大学 教授） 「たのしくボランティアをはじめるには」 ボランティア体験レポート 実習先紹介（各施設・団体からの内容紹介）
平成26年2月9日（日）～ 平成26年3月14日（金）	区内障害者 施設等	「現場でのボランティア活動」施設・団体でのボランティア体験 ※期間中2回以上（できれば違う団体にて活動）
平成26年3月15日（土）	区社協	「これでできる！ボランティア ～体験をはじめの一步に～」 ※ふりかえりと活動紹介

⑥こころの健康を考えるサポートボランティア講座の開催

こころの病のある人たちへの理解促進と支援する人材育成を目的として、こころの健康を考えるサポートボランティア講座を「こころの健康を考える会」との共催で開催した。実習として区内3ヶ所の機関・施設でのボランティア活動を盛り込んだ。参加者は10名であった。

こころの健康を考えるサポートボランティア講座（全3回）

開催年月日	場所	内 容
平成25年9月13日（金）	区社協	お話「こころの病って何ですか？～当事者との接し方を学ぶ～」 講師；並河 東明氏（精神科医） 実習先の紹介・説明・諸注意
平成25年9月17日（火） ～10月10日（木）	施設・団体 （期間中1日 ～希望日）	実習「実際に交流してみよう」
平成25年10月11日（金）	区社協	「ちょっとした時間、ボランティアに使ってみませんか？」 実習のふりかえり（グループワーク） 活動先の紹介

⑦こころのサポートボランティアスキルアップ講座

開催年月日	場所	内 容
平成26年2月17日（月）	区社協	お話「精神疾患とは・・・」 講師；並河 東明氏（精神科医） ・質疑応答 ・交流会

⑧京都手をつなぐ育成会 合同研修事業の開催

開催年月日	場所	内 容
平成26年2月20日（木）	区社協	講演 「より自分らしくくらすために、今からできること」 講師：社会福祉法人やましの里 生活介護事業所やましの里 所長 津田 尚子 氏

4) 福祉教育・ボランティア学習推進の事業

①中高生の福祉体験事業（山科ユースアクション）の実施

中高生に夏休みを利用した3～5日間の福祉体験の機会を提供し、「福祉やボランティア活動への関心を持つきっかけづくり」「地域の福祉施設、またその利用者について理解することで地域の生活課題を知る」「地域活動やボランティア活動、またそれに関わる方たちの思いを理解する」ことを目的に山科青少年活動センターと共催で実施した。体験プログラムとして、(1) 地

域活動コース、(2) 福祉施設コースの2つを設定し、(2) 福祉施設体験コースを 1)障害者施設 2)高齢者施設 3)児童施設 の3つの種別に分けた。総勢64名(内訳：中学生28名、高校生36名)の参加希望があり、実施期間を2つに分け、区内24ヶ所の福祉施設で福祉体験を行った。オリエンテーションでは、施設職員にも協力していただき、施設体験の各分野に分かれてディスカッションを行った。事業終了後、参加者による体験感想を集約し感想文集を発行した。

- ・地域活動コース
- ・福祉施設体験コース(障害者施設、高齢者施設、児童施設)
- ・参加者合計64名(内訳：中学生28名、高校生36名)

山科ユースアクション2013(日程)

開催年月日	場所	内 容
平成25年7月19日(金)	山科青少年活動センター	学習(事前研修) 全体オリエンテーション 活動先別オリエンテーション
A日程：7月25日(木)～7月31日(水) B日程：8月1日(木)～8月7日(水) (期間中3～4日間)	活動先	体験 ・地域活動コース(山科青少年活動センター) ・施設福祉コース(障害者施設・高齢者施設・児童施設)
A日程：8月8日(木) B日程：8月19日(月)	山科青少年活動センター	交流(事後研修) 活動のふりかえり 修了証授与

(体験先施設と参加者数)

施設名	参加者数	施設名	参加者数
特別養護老人ホーム長楽園	2	山科保育園	2
勸修老人デイサービスセンター	3	安朱保育園	2
デイサービスセンターひびき	1	こぼと保育園	4
百々児童館	1	陵ヶ岡保育園	5
山階児童館	1	山階保育園	1
山階南児童館	3	柳辻保育園	8
大塚児童館	2	さくら保育園	4
鏡山保育所	2	ももの木保育園	4
万因寺保育園	2	大宅保育園	3
西野山保育園	3	若林保育園	1
なかとみ保育園	2	地域活動ボランティア「ちかボ。あそび隊」	2
西念寺保育園	4		
永興小金塚保育園	2	合 計	64

5) 活動支援事業

①ボランティア活動資材の整備及び貸出

学校から、福祉教育やボランティア学習で使用する車いすやアイマスクなど貸出しの依頼に対応した。また、区民へ車いすの貸出しも行なった。

ボランティア活動資材・会議室等貸出件数

活動資材	貸出件数	活動資材	貸出件数
車いす	119件	マイク・アンプ	3件
アイマスク	0件	スピーカー	0件
プロジェクター	3件	点字器	0件

会議室等貸出	件数
ボランティアルーム	356件
会議室	58件
印刷機	431件

スクリーン	4 件	ビデオテープ	0 件
ビデオデッキ	0 件	図書	0 件
OHP、略字表	0 件	貸出総数	129 件

②福祉ふれあい・あんしん保険の普及

ボランティア活動中の偶然な事故について補償する「ボランティア保険」、「福祉行事保険」、「まごころワイド（福祉事業者総合補償制度）」の加入を促進した。

福祉ふれあい・あんしん保険加入人数

福祉ふれあい・あんしん保険	件数	加入人数
ボランティア保険	213 件	3,116 名
福祉行事保険	225 件	9,066 名
まごころワイド保険	11 件	

③山科ボランティアグループ連絡会への支援

山科区内で活動するボランティアグループで結成する山科ボランティアグループ連絡会では、参加メンバーにて会議を行い、互いの情報交換・ネットワークづくりを図るとともに、各種ボランティア講座の企画・運営、研修会の開催、「こどもフェスタ 2013」や「ぐるっとふれあいまちフェスタ in 山科 2013」など区内のイベントでボランティア活動やグループ紹介等の啓発をおこなった。また、連絡会加入団体に対しては、年間を通じて会議室やボランティア室の利用など活動推進に協力した。

ボランティアグループ連絡会会議

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 4 月 22 日（月）	区社協	1. 平成 25 年度区社協年間事業計画概要について 2. 平成 25 年度ボランティア講座年間実施計画について 3. ボランティア基礎講座について 4. 情報提供・近況報告 5. その他
平成 25 年 6 月 10 日（月）	区社協	1. ボランティア基礎講座の内容について 2. ぐるっとふれあいまちフェスタ in 山科について 3. ボランティアグループ連絡会の研修会について 4. 情報提供・近況報告 5. その他
平成 25 年 7 月 22 日（月）	区社協	1. ボランティア基礎講座の内容について 2. ぐるっとふれあいまちフェスタ in 山科について 3. こころの健康を考えるサポートボランティア入門講座について 4. 情報提供・近況報告 5. その他
平成 25 年 10 月 7 日（月）	区社協	1. ぐるっとふれあいまちフェスタ in 山科について 2. 災害ボランティアセンター設置・運営訓練について 3. 山科区民まつりについて 4. 研修会及び交流会について 5. 情報提供・近況報告
平成 25 年 12 月 2 日（月）	伏見区役所 醍醐支所	・伏見区ボランティアグループ連絡会 活動交流会 ・意見交換
平成 26 年 1 月 20 日（月）	区社協	1. ぐるっとふれあいまちフェスタ in 山科の振返りについて 2. 災害ボランティアセンター設置・運営訓練について 3. 伏見区・山科区ボランティアグループ連絡会交流会の振返りについて 4. 連絡会の今後の進め方について 5. 情報提供・近況報告

		6. その他
平成 26 年 3 月 3 日 (月)	区社協	1. 平成 26 年度事業計画について 2. 平成 26 年度ボランティア講座について 3. 情報提供・近況報告 4. その他

ボランティアグループ連絡会交流会

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 3 月 3 日 (金)	ぼんぼり	1. 会員同士での交流懇談会及び情報・意見交換

④ボランティア団体活動助成

ボランティアグループへの支援として、連絡会加入団体を対象とした活動助成を実施した。財務委員会の審査により、申請があった 8 団体のうち 8 団体に助成金を交付した。また助成金の使途の明確化と活動の活性化を目的に、助成金交付説明会を開催した。

ボランティア団体活動助成

団体名	助成内容	助成金額
京都市手話学習会みみずく山科支部	合同研修会費用の一部	30,000
京都市要約筆記サークルかたつむり (山科)	中途失聴・難聴者の情報保障のための研修	30,000
特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろば	広報紙「コッペパン」発行	30,000
山科タンタンおもちゃライブラリー	広報紙「タンタン通信」発行	30,000
親子支援ネットワーク♪あんだんて♪	広報紙「あんだんて通信」発行	30,000
沢ネット	ボランティア保険料の	10,000
地域活動ボランティアあそび隊	活動啓発用チラシ・ポスター作成費用の一部	30,000
わの会	会報誌作成費用の一部	10,000
合計 8 団体	助成金額合計	200,000

6) 災害対策事業

①山科区防災会議への参画

山科区役所区民部総務課が主管する山科区防災会議に参画した。

②山科区災害ボランティアセンターの取り組み

「山科区災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」を基に、実際の設置予定場所において区災害ボランティアセンター設置・運営訓練を実施した。参加者には、地域と災害ボランティアセンターとの連携体制について体験いただいた。

山科区総合防災訓練・山科区災害ボランティアセンター設置・運営訓練

開催年月日	場所	内 容
平成 25 年 11 月 14 日 (木)	山科青少年活動センター	<p>■第 1 部 災害時ボランティアセンター研修会</p> <p>①講義「水災害における注意点」 山科消防署 三浦 幸昌</p> <p>②講義「災害ボランティアセンターについて」 山科区社会福祉協議会 中村 亮太</p> <p>■第 2 部 災害ボランティアセンター 地域連携訓練</p> <p>■山科区役所 講評</p> <p>■閉会</p>

6. 生活支援事業

①個別支援

社協ネットワークを活かして地域に出向き、地域の困り事や個別の生活課題のある人に対し、必要な関係機関とつながりながら相談対応をすすめた。住民にとっての身近な相談先のひとつとなるために、より一層戦略的な周知とアウトリーチを展開する必要がある。

新規相談対応件数

月度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
新規相談 件数 (内継続件数)	1	1	2	3 (2)	1 (1)	5 (1)	2 (1)	2	1	1	2	2 (1)	23

相談の詳細内訳（上表、合計23件の内訳）

内容 分類	居場所等への 社会参加	生活の しづらさ	就労・就学 支援	介護等家族 の心配事	地域からの 心配事	合計
高齢者	6	6	1	4	2	19
障害者	4	6	2	3	3	18
成人		1	1			2
子ども	1	1	1			3
合計	11	14	5	7	5	42

※相談は複数の生活課題を抱えている場合が多い。

②若年性認知症の方の地域生活支援

若年性を含む認知症の方の支援の取り組みの具体化を図るため、専門機関との連携を深め情報交換を日常的に行いつつ、認知症の方と介護家族の支援のためのネットワーク構築に向けた検討をすすめた。認知症の方の地域生活支援をすすめるためには、㉑認知症の方の把握のための医療機関や家族の会との連携、㉒地域生活を支援するための専門機関との連携、㉓地域住民組織や介護家族組織と専門機関の連携による居場所づくりと相談会などのふれあい、支えあいの取り組みの組織化、などと、㉔そのためのネットワーキングの必要性が明らかになった。

③京都市社協受託「チャレンジ就労体験事業」への協力

稼働能力はあるがすぐには就労が困難であったり、社会参加の機会が必要な生活保護受給者に対して、施設や企業での軽作業等就労体験の機会を提供し、その経験を通じて自立への課題克服および経済的な自立等にむけたステップアップへと促すことを目的として、7月から京都市社協が受託、区社協が協力することとなった。

平成25年12月 醍醐1件

(山科中央老人福祉センターにての体験。オリエンテーションにて本人拒否により中止)

平成26年2月 山科1件

(山科老人デイサービスセンターにての体験(社会生活自立目標型3ヶ月)中。

また、法人内6施設(山科老人デイサービスセンター・山科中央老人福祉センター・山階児童館・百々児童館・大塚児童館・小野児童館)に加えて、区内での体験先開拓に協力することとなった。

医療・福祉施設を中心に依頼し、3件受託いただき、体験先として登録された。

洛和会ヘルスケアシステム

社会福祉法人京都身体障害者福祉センター 京都市山科障害者授産所

社会福祉法人積慶園 山科積慶園

7. 福祉関係団体等事業への助成

福祉団体・福祉事業の推進を図るために、下記の団体に助成を行った。また助成金の使途の明確化と活動の活性化を目的に、助成金交付説明会を開催した。

福祉団体・福祉事業助成金一覧（単位：円）

団体名	助成金額	団体名	助成金額
山科区保育園協議会	70,000	山科区母子寡婦福祉会	50,000
山科区身体障害者団体連合会	119,000	山科区老人クラブ連合会	105,000
山科区肢体障害者協会	64,000	山科区遺族会連合会	50,000
視覚障害者協会山科支部	64,000	山科区少年補導委員会	105,000
聴覚障害者協会山科支部	64,000	山科区子供会育成連絡協議会	42,000
中途失聴・難聴者協会山科支部	64,000	「社会を明るくする運動」山科区実行委員会	142,000
山科区身体障害児者父母の会	36,000	ふれあい“やましな”実行委員会	268,000
手をつなぐ育成会山科支部	143,000	合計 15 団体	
		助成金額合計	1,386,000